

原子力防災訓練を実施

長崎県原子力防災訓練が11月19日、鷹島町で実施されました。

災害対策基本法や原子力災害対策特別措置法、地域防災計画などに基づく訓練で、防災関係機関相互の協力体制の強化と、住民の原子力防災に対する理解を図ることを目的に実施されたものです。

訓練には、市や県、警察、消防など16機関と九州電力(株)玄海原子力発電所から10[※]。圏内にある鷹島町阿



翁・阿翁浦・日比地区の住民、合わせて約200人が参加。玄海原発からの放射性物質漏れを想定し、災害対策本部の設置や海上と陸上における避難・誘導、放射線量を測定するモニタリングなど6項目の訓練を実施しました。

松浦市文化功労賞表彰

「松浦市文化・スポーツ功労賞」の表彰式が11月23日、文化会館で開催されました。

この日は、今年度から設けられた松浦市文化功労賞の表彰が行われ、森義男さん（御厨・大崎上、85）、小川吉弘さん（福島・播磨釜、85）、柴山喜六さん（鷹島・里、85）、倉富トシさん（鷹島・原、82）、川上郁子さん（福島・日の浦、67）が受章されました。



作品や舞台を披露

平成20年度市民文化祭が11月21日から23日にかけて、文化会館で開催されました。

作品展示では、書・絵画・写真・俳句・短歌・手芸・工芸・生花・茶道の約330点が披露され、舞台発表では、日本舞踊・コーラス・フラダンス・三味線・詩吟など67演目が披露。日ごろの制作活動の成果を発表した作品や練習の成果を発揮した舞台発表に、会場を訪れた人たちは芸術の秋を堪能していました。



おはなしの会ポケットが市立図書館に寄付

おはなしの会ポケット（三木和枝会長、15人）が11月8日、水軍まつりでのバザーの収益金を市立図書館に寄付しました。

同会は、子どもに本に親しんでもらおうと、市立図書館で子どもたちを対象に、毎月1回の読み聞かせや、毎年恒例の「ポケットのクリスマス会」を開催しています。

この日図書館を訪れた三木会長と会員5名は、市立図書館の図書購入費に活用してほしいと、10月末の水軍まつりの際に行ったバザーの収益金76,044円を山崎館長に手渡しました。三木会長は「市の財政にできるだけ協力したいと昨年に続いて2回目のバザーを企画しました。

バザーの商品を提供してくれた人、バザーで購入してくれた人にとっても感謝しています。また、松浦で育つ子どもたちの豊かな成長のために図書費の向上を望んでいます」と話していました。



まちの話題



笛吹ダム見学会

笛吹ダムの見学会が11月18日、同施設で行われました。

県が、土木事業啓発活動の一環として「土木の日」に合わせ、毎年さまざまな事業を行っているもので、今回は同ダム竣工からちょうど1年を迎えることから、改めてダムについて学んでもらおうと見学会を行ったものです。この日参加した松浦地域婦人会とかしら会など約30人は、ダムの概要説明を受けた後、操作室やダム本体の監査廊（点検用トンネル）など、ダム内を興味深く見学していました。





まちづくりに市民の声を

まちづくり市民懇話会が11月10日から28日にかけて、市内8会場で開催されました。

市が、市民の意見を今後のまちづくり施策に反映させようと開いたものです。

懇話会には、8会場で約230人の参加者があり、行政改革の取り組み状況や松浦地区消防組合の動き、松浦市民病院の状況、西九州自動車道の進捗状況、定住促進事業の内容などを説明した後、意見交換を行いました。参加者から「地域の均衡ある発展、一体的な地域づくりが必要である」「鷹島肥前大橋開通に伴う周辺環境整備が重要である」「交流人口増対策と同様に定住人口対策、雇用の場の確保も必要である」などの意見や質問が出ていました。

パンづくりや年賀状づくりなどに挑戦 —松浦東高ならでわ講座—

専門知識を市民に教える学校地域開放講座が11月29日、松浦東高校（山口和秀校長）で開講し、12月13日まで計5回、パンづくりやパソコンを使つての年賀状づくりなどの講座がありました。

学校の教育的機能や施設を開放し、市民の文化活動の促進を図るため毎年開催されているもので、今年は、東高だからこそ受けられる講座内容を中心に、クリスマスとお正月を見据えた「松浦東高ならでわ講座」を開催。市民15人が受講し、同校の8人の教諭が講師を務めました。



地域安全情報ネットワーク発会式

地域の防犯情報を共有する松浦市地域安全情報ネットワークの発会式が11月25日、松浦警察署で行われました。

同ネットワークは、警察署、松浦地区連合防犯協会、交通安全協会、金融防犯協議会、市など9団体で構成。各団体が持つ少年非行、不審者、危険個所などの情報を月1回程度報告し、防犯協会事務局で集約、共有するものです。式では松浦警察署岩田廣文署長が「積極的な情報提供と、犯罪をさせない地域づくり、犯罪をやりにくい環境づくりを心がけ、安全・安心のまち松浦市を目指しましょう」とあいさつしました。



育てた野菜でシチュー作り

御厨小学校（中田順子校長）の6年生と、松浦青年農業者会（白石健一会長）の会員が11月26日、同校の畑で一緒に育てた野菜を収穫しました。

同会が平成17年度から毎年行っている食育活動の一環で、野菜を育てる大変さと収穫の喜びを知ってもらおうと実施したもの。この日は、夏ごろに植え、児童が交代で水やりなどをして育てたニンジン、ジャガイモ、ブロッコリー、ダイコンなどを収穫。収穫した野菜は、全員でシチュー、豚汁、ダイコンサラダなどに調理し、味わいました。



「的射ち」と「稲舞」を奉納

来年の豊凶などを占う「的射ち」と「稲舞」が12月2日、白浜神社で奉納されました。

神殿の天井二隅に取り付けられた的をめがけて矢を射ち、来年の豊凶を占う「的射ち」では、中川明宏宮司^{あきひろ}が矢を放ち、直径60センチの的に3本ずつ命中させました。

また、「稲舞」では、収穫した稲の束を枇杷和輝君^{かずき}（志佐小3年）が担いで、中川宮司と一緒に舞を披露。その稲の穂を集まった氏子など約70人に配って、翌年の豊作を祈りました。

